2023年2月15日号（通巻98号）

NITTOSEIKO 日東精工 ニュースレター

京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20番地／日東精工株式会社経営企画室発行

中期経営計画「Mission G-second」を策定。4つの事業戦略で、持続可能な企業を目指します

当社は、この度、2023年を初年度とし2025年までの3か年の事業運営に関する中期経営計画「Mission G-second」を策定しました。今号ではその概要をお知らせいたします。

当社グループは2019年に10年後のビジョンとして『世界中で認められ、求められる「モノづくりソリューショングループ」を目指す』を掲げ、その第1ステージとして4か年の中期経営計画「NITTOSEIKO Mission “G”」をスタートさせ、事業領域の拡大やグループシナジーの向上を中心とした取り組みを実践してまいりました。

今般、第2ステージとなる今年度からの3か年の中期経営計画「Mission G-second」を策定。Gの意味するGroup's Global Growthを継承し、事業の成長と安定基盤の確立を重点とする4つの成長戦略で、ステークホルダーから高い信頼と、将来が期待される持続可能な企業を目指してまいります。

各事業セグメントに求められる課題を分析し、強みを活かした事業の拡大、事業活動全てにおける環境への対応に加え、高効率な財務体質と事業活動による持続可能な企業づくりを実践します。また、当社創業からの道しるべである「我らの信条」を体現できる人づくりに努め、高いエンゲージメントでサステナビリティ社会の実現を目指します。

より詳しい内容はこちらから▶

中期経営計画 Mission G-second

経営ビジョン

『世界中で認められ、求められる「モノづくりソリューショングループ」を目指す』

戦略テーマ

4つの成長戦略で持続可能なグループへ

Growth #1 事業拡大戦略	Growth #2 環境戦略	Growth #3 人財戦略	Growth #4 財務戦略
▼コア・コンピタンスを活かした事業別成長戦略 ▼お客さま目線のソリューション活動 ▼事業拡大、経営効率のためのグループ最適化	▼事業活動全てにおける環境への対応 ▼持続可能な社会につながる地方創生活動 ▼経営改善につながるガバナンス体制の強化	▼求める人財の育成と活用 ▼健康で幸せを感じる働きやすさの追求 ▼人権課題への積極的な取り組み	▼資金管理の最適化による財務体質の向上 ▼指標管理による投資効率の追求 ▼QCD向上につながるDXの実践

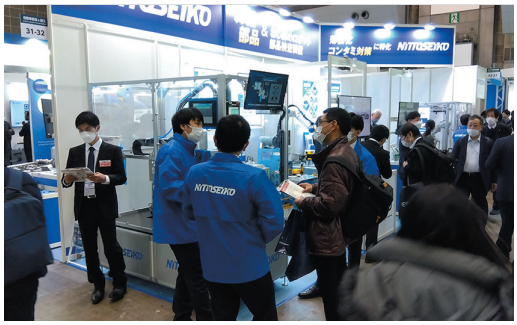
クルマの軽量化技術展で
日東精工グループの技術力をアピール！

日東精工では「自動車分野」を重点事業の一つにおいています。これまでにも自動車分野には当社製品がたくさん採用されていて、たとえばファスナー事業の冷間圧造部品だけでも、ミラーやシートベルトなど様々な箇所に使われています。詳しくは当社ホームページで閲覧が可能です。また、産機事業部のねじ締め機やねじ締めロボット、制御システム事業部のマイクロバブル洗浄機や計測検査機器なども自動車分野で高く評価され採用に至っています。

また、当社は精密ねじ、極小ねじを得意としていますが、ケーエム精工や協栄製作所など太物を得意とする会社、あるいは精密プレスを得意とする伸和精工などがグループに加わったことで、訴求する製品ラインナップがより広がっています。

今般、社会全体から「脱炭素」が求められるなかで、自動車もEV車、ハイブリッド車への展開がさらに広まっていくことは必至であり、たとえば重要保安部品へのタップタイトの採用、電装化が進むなかで異種金属接合「AKROSE」の採用などに加え、これまで以上に当社グループ製品の活躍の場が広がっていくことが期待されます。

1月25日から27日まで東京ビッグサイトで「第13回クルマの軽量化技術展」が開催され、日東精工グループも出展し、技術力、製品力をアピールしました。



東京ビッグサイト東展示棟にて出展。
手前はコンタミ対策ねじ締めロボット

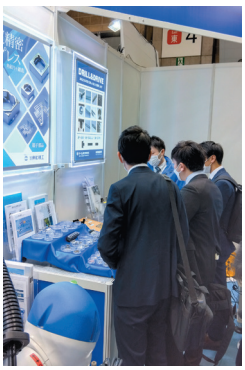
■出展品目

①薄板用圧入ボルト【ジョイスタッド】
②ねじ切り粉粘着型ねじ【CP グリップ®】
③異種金属接合【AKROSE®（アクローズ®）】
④鉄カラー＆インサートナット廃止ねじ
【カラーレスタイト®】
⑤強力ゆるみ防止ねじ【ギザタイト®】
⑥ファスナー関連 新製品
【ジョイスタッド-HT、SS,WP】
⑦自動車採用事例【アルミタイト®、Gピン】
⑧特殊冷間圧造部品【ギヤ部品】
⑨ねじ締めロボット
【コンタミ対策ねじ締めロボット】
⑩ 協働ロボット専用ねじ締めツール
【PD400YE】
⑪ 高性能検査選別装置【MISTOL® ロボタイプ】
⑫当社グループ企業の製品展示
㈱伸和精工：プレス品
ケーエム精工㈱：ナット、ドリルねじ

ジョイスタッド圧入デモ

コンタミ対策ねじ

MISTOLロボタイプ


グループ製品も紹介

「Newsweek International」に当社代表取締役インタビュー掲載

『Newsweek』はアメリカ国内外に多くの支局をもち全世界で読まれている国際ビジネス誌ですが、2022年12月16日発行の『Newsweek International（国際版）』および英国通信社『THE WORLDFOLIO』のWEBサイトに当社代表取締役社長 材木正己のインタビュー記事が掲載されました。当社のゆるみ止めねじ「ギザタイト」や異種金属接合「AKROSE」をはじめ、ねじ締め機やマイクロバブル洗浄機などを紹介しつつ、他に類を見ない「ファスニングソリューション」を訴求しています。

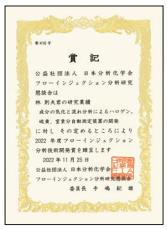
NITTOSEIKO's innovative technologies support global industry

From the unique AKROSE to microbubble generators, NITTOSEIKO is looking to push its technologies further in the global market.

▲英文記事はこちらからお読みいただけます

日東精工アナリテック 社員が「FIA技術開発賞」を受賞

当社グループ会社、日東精工アナリテック㈱技術部の林則夫が日本分析化学会・フローインジェクション分析（FIA）研究懇談会より「FIA 技術開発賞」を受賞しました。各種材料や原料、環境試料に含まれるハロゲン、硫黄、窒素分の自動分析計の開発に長年携わり、その功績が称えられたものです。そして同社の主力製品である分析計の要素技術をベースに、熊本大学と共同でDMS※の測定装置を開発。DMSは地球科学的にも生物学的にも重要な物質であり、その挙動をオンサイトで研究する上で当該装置の有効性が高く評価されたものです。


賞 記

※ジメチルスルフィド

2022年11月25日、神戸湊川神社の楠公会館にて授賞式が執り行われた
（写真の右から3人目が林氏）

NITTOSEIKO'S SDGs（サステナビリティ経営推進）

地域の若手技術者を養成する綾部工業研修所、卒業式開催

一般社団法人綾部工業研修所の卒業式が昨年12月14日に開催され、基礎コースと上級コースでそれぞれ学んできた研修生が、卒業証書や終了証書（上級コース）を授与されました。

綾部工業研修所は今から56年前、昭和41(1966)年に日東精工が中心になって、地域の若手技術者養成を目的に設立されたもので、当社代表取締役専務の荒賀誠が理事長を務めています。技術を伝える講師は当社や当社関連会社の技術者が務めるほか、京都工芸繊維大学とも連携しており、充実したプログラムを展開。自社社員のための技術研修、教育プログラムをもっている企業は少なくありませんが、地域全体に門戸を開いている全国でも珍しい民間の教育機関です。「SDGs」の目標ゴール〈質の高い教育をみんなに〉〈産業と技術革新の基盤をつくろう〉に通じるものといえるでしょうか。

研修期間は通常毎年7月から翌年6月までの1年間ですが、ここ数年はコロナ禍もあり、休講となったり研修生を休ませたりした企業もあり、1年以上の期間を設けて全員がカリキュラムをこなせるように工夫しました。卒業式には基礎コース16人と上級コース11人、そしてまだ卒業式を迎えていなかった研修生2人も参加しました。

基礎コース、上級コースの研修生計29人が卒業、修了
綾部工業研修所の卒業式

あやべ市民新聞2022年12月19日

日東精工は国連のSDGsの理念に賛同しています

from 社長室

正己語録 62

ベートーヴェンから顧客ファーストを学ぶ

ピアニストで作曲家、音楽家でもある清塚信也さんが「ベートーヴェンは今でも新しい。時代の先駆者である」といった趣旨の発言をされていました。

ベートーヴェンといえばクラシック（古典音楽）の巨匠・楽聖で、いまから200年も前に活躍した作曲家です。若くして聴覚を失いながらも、名曲を多数残した「孤高の人」というイメージを抱きがちですが、常に新しいことに取り組んだチャレンジャーであったといい、いまの若い人たちの音楽も知らず知らずのうちにベートーヴェンの影響を受けているというのです。

たとえば、昭和・平成の時代の歌謡曲、Jポップは「イントロ（イントロダクション）」が長いものが多く、それこそ、「イントロ曲名当てクイズ」などが流行りましたが、いまはいきなり「サビ」の部分からはじまる曲が多いようです。yoasobiの『夜に駆ける』であるとかadoの『新時代』など、イントロなしではじまり、それが時代の先端のように思えたりするのですが、ベートーヴェンの交響曲8番『運命』を思い返してみればわかるでしょう。第一楽章でいきなり「ジャジャジャジャーン♪」とはじまります。サビからはじめるという手法は、すでに200年も前にベートーヴェンが確立していたのです。

そのほか、同じメロディやフレーズを繰り返すこと（リフレイン）や、スタッカートでメリハリをつけることなども、ベートーヴェンがはじめたということで……、清塚さんの解説を聞くと「なるほどね」と納得できました。

どんな分野でも良きナビゲータがいると理解が深まりますし、また、まさに温故知新、先人から学べるものは多いのです。おかげさまで当社は2月11日の建国記念の日に創立85周年を迎えることができましたが、この話を耳にして、先達をリスペクトしなければならないという思いを、ますます強くしました。

ところで、ベートーヴェンがなぜ先駆的なことをはじめていったのかといえば、それまでの時代はバッハにしろ、モーツァルトにしろ、室内楽（宮廷音楽）が主流で、固定層に向けてある程度の予定調和で成り立っていたものだったのが、ベートーヴェンの時代になると音楽のすそ野がより広がり、宮廷内だけでなく、広く聴衆向けにアピールしなければならなくなったからだといいます。

聴衆になにをすれば受けるのか、彼らの心をつかむためにどうすればいいかを追求していった結果が、新しい手法を生み出し数々の名曲につながったわけです。これはビジネスの世界ではカスタマーファースト（顧客最優先）につながり、じつはビジネス面でもベートーヴェンから学べることは多いのです。

連載56

あやべ　ちょっと寄り道

地元唯一の酒蔵「若宮酒造」

前身は「三丹酒造」で、綾部市内にある若宮神社の宮水で仕込みを始めたことから「若宮酒造」と名前を改めたといいます。代表銘柄は「綾小町」ですが、最近では地元京都府内の高校・大学と連携した「若者のための日本酒造り」も開始。これまでの日本酒のイメージを一新する「Chillな夜に癒しを得る」という商品も開発し、当ECサイトで発売しています。所蔵見学なども可で、地元民に愛される酒蔵です。

発行：日東精工株式会社経営企画室
当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲読いただけます